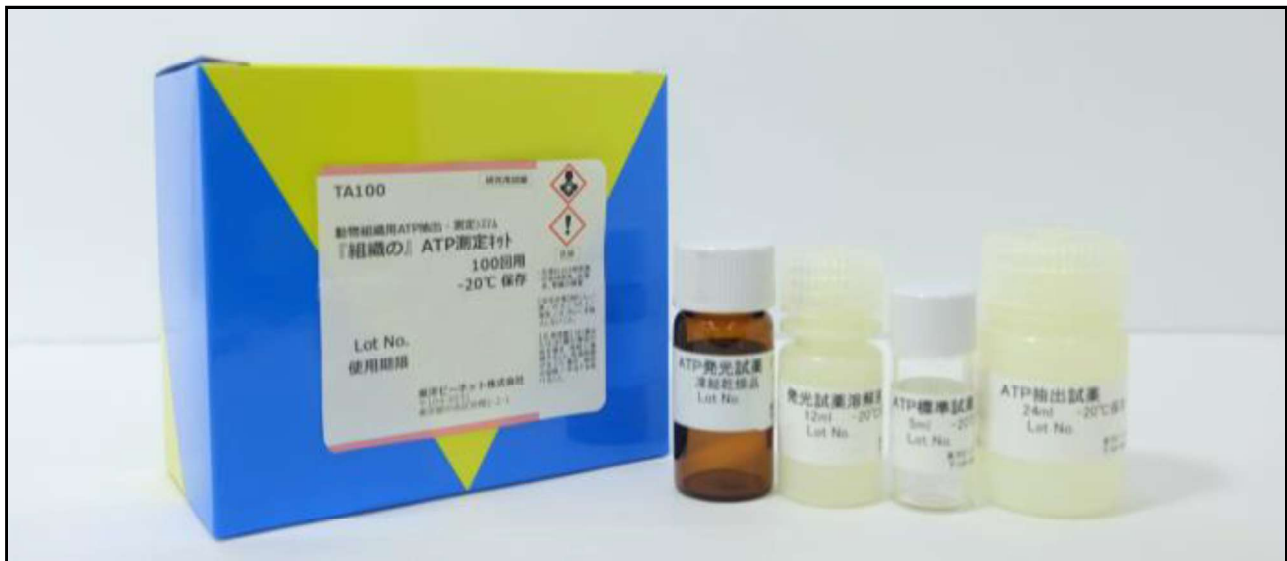


『組織の』ATP測定キット TA100



<p>概要</p>	<p>動物組織から抽出したATP量を、ホタルルシフェラーゼ発光法により測定する試薬キットです。 専用の抽出試薬により、ATP量を高感度に測定できます。本キットは、シングルチューブ型のルミノメーターに適した、少数検体向けの製品です。</p>
<p>希望小売価格 (税別)</p>	<p>61,740円</p>
<p>製品構成</p>	<p>ATP発光試薬 (凍結乾燥品) ATP発光試薬溶解液 (12 ml) ATP抽出試薬 (24 ml) ATP標準試薬 (1x10⁻⁷M、5 ml)</p>
<p>保存条件</p>	<p>-20℃、遮光 ※調製後の発光試薬は、-80℃</p>

『組織の』 ATP測定キット

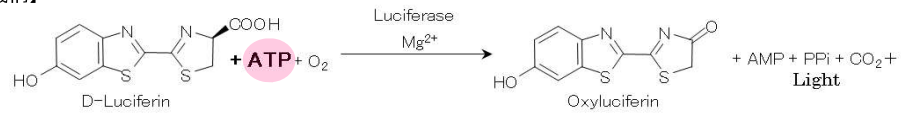
メーカーコード

TA100

東洋ビーネット株式会社 バイオプロダクツ部

【ホタル・ルシフェラーゼ発光反応機構】

発光量 (RLU) を
ルミノメーターで測定



本製品は、ホモジナイズした動物組織からATPを抽出し、抽出したATP量をホタル・ルシフェラーゼ発光法により測定する試薬キットです。動物組織中のATPを効率よく抽出でき、専用の発光試薬により、ATP量を高感度に測定することができます。

『組織の』ATP測定キットは、シングルチューブ型のルミノメーターに適した少数検体向けの製品です。

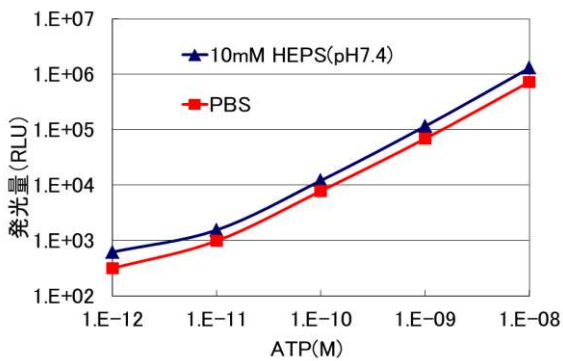


Fig.1 ATP濃度と発光量の関係 (検量線)

10mM HEPES-NaOH (pH7.4) またはPBSでATP標準試薬 (1×10⁻⁷M) の10倍希釈系列を調製し、プロトコルに従って発光量を測定(n=2)。

(※相関係数は、0.999以上)

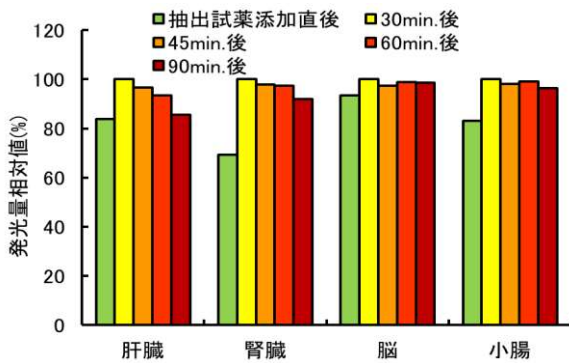


Fig.2 抽出後の ATP量の経時変化

プロトコルに従って、各組織からホモジネート上清の希釈サンプルを調製し、ATP抽出試薬を添加後、室温に静置。

抽出試薬添加から0, 30, 45, 60, 90分後に発光量を測定(n=2)。

(※グラフは、抽出試薬添加から30分後の発光量を100とした場合の相対値(%)を示す)

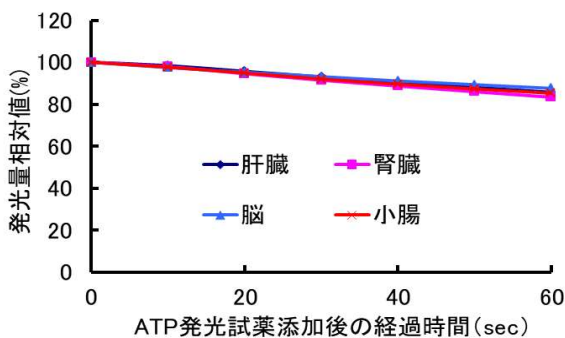


Fig.3 各組織における発光キネティクス

プロトコルに従って、各組織サンプルにおける発光量を測定(n=2)。

(※グラフは、ATP発光試薬添加後の60秒間の発光キネティクスを示す)

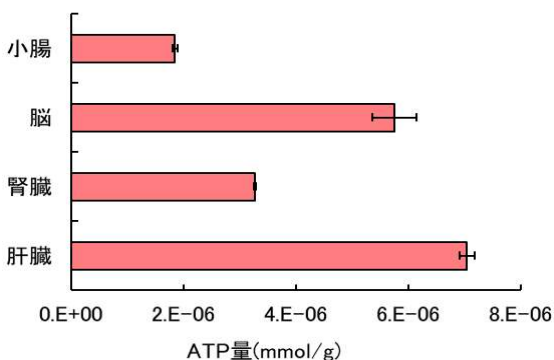


Fig.4 各組織1g当たりのATP量の一例

プロトコルに従って、各組織サンプルにおける発光量を測定 (n=3)。検量線を用いて組織重量 (g) あたりのATP量を算出。

(※各組織は、8週齢以上のラット冷凍臓器 (市販品) を使用)